

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	長野県
-------	-----

学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	東部町立田中小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	3	3	2	2	19	26
児童数	94	93	90	85	94	75	10	544	

研究の概要

1. 研究主題

素地となる学力を着実に身につけにはどのような指導体制を組み、どのように指導していったらよいか。

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

・5年生・算数
算数の授業時間内では、学習目標の達成が困難な児童が数人ずついるために個別指導に追われ問題解決的な学習を構成する時間が少なかった。また、基本問題を集団思考で解いた後、練習問題を解き答え合わせを各自でしたり友達同士とするなどしたが、量をこなすだけで質の高まる内容を保証できなかったため。

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	(生きて働く力の実現のために、評価規準について、14年度の校内研究で深め、まとめた。15年度は、それをどのように実践し、有効に活用すればよいか追究することにした。)
--------	--

平成15年度	<p>テーマ 生きてはたらく力を育てるにはどうしたらよいか。</p> <p>研究の見通し 指導と評価の一体化を図り、個々の児童の理解を深め教材研究を充実させ、問題解決力を高めるにはどうしたらよいか。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 個に応じた指導のための教材研究...問題解決的な学習が展開できるよう、個々の児童の実態を把握し、予想されるつますきに対する個に応じた指導の手だてを考える。
--------	---

	<p>また、視覚に訴えイメージでき、意味や関係性を理解して追究できるような教材化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個に応じた指導のための指導方法・指導体制のあり方...教科、学習内容に応じた学習集団の編成の仕方はどうするか。学び方別による学習集団での学習の進め方、学級内学習コースの時の教師の連携や集団の編成の仕方。 ・ 指導と評価一体化を目指して...授業毎の評価の観点の据え方、学習目標が達成できているか判断できるものにするにはどうしたらよいか。学習目標が達成できない場合には、その原因が明らかになり手だてが見えてくるもの、次の授業の参考になる評価はどのようなものか。
--	---

平成16年度	<p>テーマ</p> <p>考える力を高めるために一人一人の特性をとらえ、個々の児童の応じた指導はどのようにしたらよいか。</p> <p>研究の見通し</p> <p>指導と評価を計画的に進め、個に応じた算数的な活動により、関係や決まりを見つけ出し問題解決力をつけるには、どうしたらよいか。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>毎時間の評価により児童理解を深める。指導に役立つ評価の観点、毎時間可能な能率的で効果的な記録の仕方、記録の分析・まとめ・生かし方。</p>
--------	---

(3) 研究推進体制

<p>学校長 - 教頭 - 指導委員会 - 少人数学習指導委員会（フロンティア事業推進委員会）</p> <p>全校研究主任 5 学年会 6 学年会 算数主任 少人数指導教員</p> <p>年度当初隔週に推進委員会を予定していったが、時間を確保できなかった。学年会の時間の中に組み込んだ。休憩時間や放課後にも情報交換や協同での教具等を作った。</p>
--

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

<p>問題提示の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 問題の意味が分かり、イメージを持たせることができる問題提示...全員が声を出して読むことにより集中できる。意欲的に読んでいるかどうか見ることができる。マジックや絵の具で印象的なものの用意し掲示した。図、絵、写真を拡大コピーを使用した。一人一人の口の大きさなどを、声掛けすることにより、だんだんに大きな口を開いて読む児童が増えた。集中することに繋がっているように思われる。 ・ 問題の意味がとらえにくい文章の時は、視写した。 <p>算数的な活動を生かす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実際に操作できるものは、手に取ることができるように用意した。実物を見たり手にすると身を乗り出すようにしたり、そのものに関する声が挙がるなど関心を高めることができた。 ・ 受け身的な聞く、見るの学習から活動を多くした。具体的な操作活動になるとほとんどの児童はその活動を行う。 <p>確実な問題解決と定着を図る工夫</p>
--

- ・ 見通しが持てず先に進めない児童には、やり方を教えるのではなく、一步先の課題を自力で見つけることができるようにした。今までは、個別指導の時には、やり方を説明することが多く、同じやり方でできる問題でも設定や数字が変わると立ち尽くしていた児童が対応できるようになった。
不安そうで消極的だった児童が明るく生き生きと積極的に臨むようになった。
- ・ 関係図がかけないために式で表すことができない児童には、関係図の枠と矢印と「の何倍は」のヒントカードを参考にさせた。
このことにより、自分で学習を進めて問題を解くことができた。このため、個別指導が必要な児童も少数に絞られたので理解がしにくい児童への援助がゆっくりできるようになった。
「の70%は、何円」の関係図がかけない児童に一对一で「の70%は、何円」と言うと関係図をかけた。
- ・ 導入の問題は、全体で考えた。一般化の問題は、各自で考えた。
最初からできない児童には、友達の考えを生かして自力でできるようにした。
課題をもち追究することに興味がある児童から個性的な思考が生まれた。
- ・ 数量の関係をとらえるにも実際に線分図や関係図をかくようにした。
- ・ 問題や公式など予め予定にある内容は、掲示物やカードにしておき、板書は児童の発言やノートの転記など最小限度にした。このことにより無駄な情報提示も少なくなり児童の学習時間が確保でき、問題解決や個別指導の時間も多くとれるようになった。理解が不十分な児童には、個別指導の時間を多くとれた。
考える場面では、なかなか取り組もうとしなかった児童が、前問の関係図を示されるとかき方を思い出してかき、それをもとに「分かった。」とうれしそうに式、答えを書いた。まるをもらおうと自分で合格と赤ペンでかき、にこにこしていた。算数の授業中でのこのような反応は初めて見る事ができた。

評価の工夫

- ・ 授業中は、一斉指導、机間指導、個別指導などで児童の姿を記録する時間が取りにくい。授業後も次の時間のために記録のための時間が十分に確保できない。そこで、授業開始前までに、座席表や名簿に観点毎の予想を書き込んでおく。[例 関係図がかける - a ヒントカードがあれば自力でできる - b 個別指導が必要 - c]授業後に予想と異なる反応だけ朱で訂正した。これは、短時間で可能で、焦点的に児童を見ることができ、一人一人の違いが明確になり、具体的な姿を把握できる。
名簿に予想を書くときに3桁の商を求める計算でつまづくのではないかと思い、電卓を用意した。実際に計算でつまづいたが、電卓を使い解答を求めることができた。
- ・ 指導と評価の一体化を図ることも問題解決力を高めることも的確な児童理解と適切な指導、助言につながっているように考えられる。

学習内容の習熟を図る工夫

- ・ 一般化、練習問題は、一人一人のペースで行い、早くできた児童は、線分図などをかいたりプリント行い質量の拡充を図った。
時間いっぱい活動に取り組み、線分図のかき方などに慣れてきた。確かめ算で見直すこともできた。気持ちよく学習できるためか、大変に意欲的に取り組んでいる。

2. 今後の課題

素地能力をつけるために

- ・ 問題解決的な学習をするためには、素地となる学習が身につけていないと成立しにくい。ホームワークを休日を利用して行っている。放課後の援助も行っているが、既習の学習の内容の保障を徹底できないでいる。

緻密な児童理解と適切な指導

- ・ 簡潔に児童の学びの姿を記録し、児童理解を深め、つまずきに効果的な指導や援助ができるための分析やまとめの仕方。

各自に身につけるために

- ・ 授業終了時や単元テストの時は、理解していても日にちが立つと定着していないことがある。繰り返し学習をどのように行ったらよいか。
一定の成果が表れたように思うが、指導が難しい目標のときには、ねらいが十分に達成できないことがある。きめの細かい児童理解の上に立ち、一人一人の課題を明確にし、問題解決の道筋を確実に予想し、つまずきに対し有効な援助をができ、学習が確実に定着できるようにしたい。

学力等把握のための学校としての取組

学力テストの実施。	9月 5	6年	国語	算数
単元末テスト	単元終了後	1, 2年	国語	算数
		3, 4, 5, 6	国語	算数 社会 理科
CRTテスト	6年	2月		

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

16年 10月	研究を公開する予定
P T A新聞	でも少人数学習の趣旨や進め方を掲載した。
学校だより	でもフロンティア事業の紹介をしている。
フロンティア教員	が「少人数学習だより」を保護者対象に発行している。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無